

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

② 施設・事業所情報

名称：にじいろ保育園いずみ中央	種別：認可保育園
代表者氏名：木島 由紀	定員（利用人数）： 56名
所在地：〒245-0024 横浜市泉区和泉中央北5-11-5	
TEL：045-804-5485	ホームページ：https://www.like-kn.co.jp
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2009（平成29）年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ライクキッズ株式会社	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 11名
専門職員 (専門職の名称)	保育士 17名 栄養士 2名
	看護師 1名 調理師 2名
	施設・設備 の概要

③ 理念・基本方針

保育理念『のびやかに育て だいちの芽』
保育方針『みとめ愛・みつめ愛・ひびき愛』・・・信頼、安定、共感
めざす保育園像 ●陽だまりのような保育園 ●地域と共に育つ保育園 ●子
どもと共に輝いていける保育園

④ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・園庭が狭い為、天気の良い日には年齢・天候・子どもの体調を考慮しながら積極的に戸外に出ている。散歩先に恵まれているので、活動内容によって散歩先を選んで行くことができる。
- ・幼児組は日常的に異年齢児保育を行っている。幼児組3クラスでの活動を取り入れ、お互いを思いやり認め合ったりして関わりを深めている。クラス単独での活動の際には、部屋を分けたり時間をずらしたりして融通している。
- ・保育実習生や看護実習生、職場体験の中高校生を積極的に受け入れている。学生たちの学びを支援するのはもちろんのこと、受け入れる職員の側も自分の保育をみつめ直しながら指導にあたる機会としている。
- ・活発な活動と同じく、机上遊びにも力を入れている。パズル、型はめ、玉差し、空け移し、ビーズなどを行い、手先を使うことや集中力を養うことをめざしている。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年6月1日（契約日） ～ 2023年3月23日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（平成29年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

特長

・保育者として法規範・倫理など、尊厳の尊重が遵守されるよう取り組んでいる
法人として社内規定に個人情報保護方針・個人情報保護規定を定め、プライバシーマークの取得も行い、個人情報の管理を厳重に取り扱うように努めている。また、保育ガイドには児童憲章や全国保育士倫理綱領を明示し、子どもの人権に関する内容にも力を入れている。そのような体制が園にも反映されており、園長をはじめ各職員も意識しながらの保育に努めている。職員会議やリーダー会議、内部研修などでは園長が直接、講師となって個人情報や人権に関する内容を職員に説明し、研修終了後には各職員での研修報告書を提出して共有化の確認を行っている。入園時には保護者に個人情報に関する説明をし、個人情報承諾書に署名をしてもらっている。

・戸外活動を多く取り入れることで自然に触れる機会を提供している
毎日の保育の中で全クラスが年間を通して戸外活動を多く取り入れることで、子どもたちは自然に触れ季節の移り変わりを感じることができるよう支援している。近隣には自然の豊かな公園があることから、園庭以外の戸外遊びで散歩に行く機会を多く取り入れている。室内遊びでは感じられない戸外の様子を全身で感じ取る経験を積み重ねている。身近な自然物に親しむこと、手や肌で感じること、見て聞いてにおいを確かめることを繰り返していくことで、豊かな感性を育むことをめざしている。保育者はそれらの経験をより深められるような言葉かけや働きかけをして、共感することを大切にしている。季節ごとの自然の事象の変化に気づく声かけや小動物の飼育、観察などで命に気づき大切にすることを養っている。

今後期待される点

・幅広い地域との交流を図り、地域で育つ子どもを支援することを目指している
保育ガイドには、地域支援・子育て支援の項目を設けてあり、地域との関りについて明記し、職員間での共有化も図っている。ただし、コロナウイルス感染拡大防止対策の観点から、地域や行政でのイベントの参加やボランティアの受入れ、卒園児・転園児のイベント招待などを控えているのが現状となっており、園としても課題として挙げている。今後はコロナ禍でも地域との交流が持てるような工夫の検討やコロナ感染状況の動向によつての再開などを検討している。コロナ収束後には地域との連携をさらに深め、「園児への地域の社旗資源の還元」や「園の専門性の地域社会への還元」などに、さらに力を入れることを目指している。

・職員の自己評価を充実させ、さらに質の高い保育が提供できる体制作りを目指している

法人として職種、職制、職歴によって各種の研修に参加を支援したり、行政主催の研修に冠する情報も職員に提供し、希望によって参加できるようにしており、スキルアップと連動した人材育成計画としている。職員が研修に参加しやすいように、シフト調整などを行う支援体制を取っている。さらに、各種の研修への参加が、自己評価シートで設定した目標を達成できるように参加を促し資質の向上を目指している。ただし、自己評価については週案や月案、期毎に職員は取り組んでいるが、保育所の自己評価はほとんど園長が行っている。園全体の保育運営を認識するうえでも、今後は各職員も関わりを持てるようにすることを計画している。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審に際し、職員全員で取り組むことを念頭に置いてきました。
今まで行ってきたことを改めて文章化し、できているところは更に強化すること、不足しているところは改善策を検討することで、職員一人ひとりの意識がより高くなったと感じます。
日々の業務の中では曖昧であったことを客観的に見る指針となり、より明確に課題に取り組むきっかけとなりました。
今後も子どもや保護者に寄り添い、地域に根差した保育園作りを職員全員でめざしたいと思います。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり